絶景を求めて宇和島の里海に通う（30.6）

船 本　浩 路

＜はじめに＞

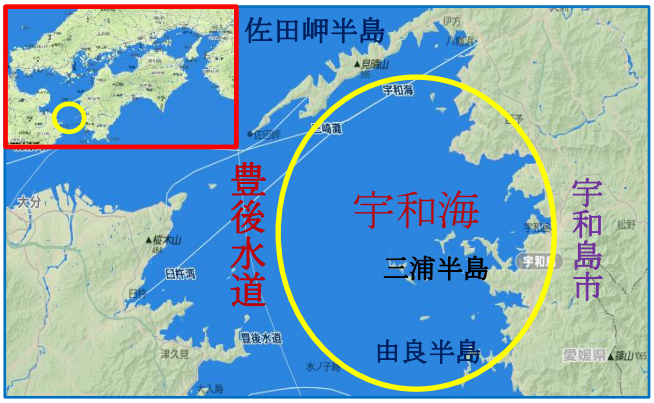
地球環境「自然学」講座では、今までに三人の先生から「里海」について非常に興味あるお話しを伺った。一人は国分秀樹先生（英虞湾における里海づくり 28.1）であり、今一人は松田治広島大学名誉教授（日本発里海（satoumi)を世界に広げる 28.11）、そしてもう一人は田中丈裕先生（NPO 法人里海づくり研究会議事務局長 30.4）である。私は釣りを通していろんな海に出かけているが、この機会に話題提供として私の気に入った里海の風景のご紹介をさせていただくことにした。

8 年前であったか青春 18 きっぷで宇和島に出かけた。大阪からは実に 500km の鈍行列車の旅は忍耐の旅だとも思われるが、地方ののどかな景色を車窓からのんびりと眺めるのも時にはいいものである。13 時間かけて着いた終着駅・宇和島は黄昏時の海が迎えてくれた。宇和島の地形や海を拝見して魚がたくさん釣れると感じ、次は是非釣りを通して身近に海に触れてみたいと思った。その念願が叶って 3 年ほど前から職場の後輩の N 君と宇和島通いが始まった。

当然たくさん釣れる海を求めて釣行するのが釣り人のごく普通の本心なのだが、私には釣果に関係なく行きたくなる海がある。宇和島の海（宇和海）はまさにその海である。入り江がたくさんあり、波静かで、素朴な漁村が点在するというどこかノスタルジックな風景が広がって、荒々しい海には無い安堵感のようなものを与えてくれるからだ。それではもう少し私が惹かれている宇和海をご説明しよう。

＜宇和島の町と宇和海＞

宇和島市は愛媛県の南西部に位置し、市街地は宇和島城のある城山を中心にして広がる人口 7.8 万人の町である。西は宇和海に面し、他の三方は山に囲まれた閉鎖的な地理的環境にできた町である。黒潮の影響を受けるため、気候は温暖な太平洋気候であり、宇和島湾内は天然の良港となっている。



前面の宇和海（右図参考）は、大分と愛媛の間を

流れる豊後水道の愛媛県側に位置する。北は佐田岬半島、南は由良半島に囲まれ、西方へ長く突き出た三浦半島や由良半島などの入り組んだ海岸線と、それらを取り巻くように浮かぶ島々が変化に富んだ多島海景観を形成し、沿岸部は複雑なリアス式海岸となるなど、風光明媚なことで知られ、その一部は足摺宇和海国立公園に指定されている。

＜絶景の海に魅せられて＞

私の好きな海は里海である。里海といってもピンと来ない方が多いかも知れない。里山はご存知のように、集落、民家があり、それを取り巻いて水田や畑地があり、さらに小川は流れ、雑木林やため池があり、その向こうには奥山があるといったイメージだと思う。未開の自然地を耕し、畑地、水田をつくり、小川やため池から水を利用するために水路が張り巡らされ、雑木林からの落ち葉を堆肥化して農地に鋤きこみ生産を上げている。また、これらの環境をうまく利用して多くの生きものが生息するなど生物多様性の観点から重要な地となっている。

由良半島・家串

これを海に置き換えてみよう。波静かな入り江の奥には、集落があり、その前の海には筏(いかだ)・ブイを利用した養殖生簀が所狭ましと浮び、魚をはじめ貝などがその入り江の特性に応じて養殖されている。小さな船溜まりと筏等の間を漁労に使う小船が行きかい静かな入り江にその航跡の波紋が広がっている。入り江の向こうの外海は力強い海原が続く。外海が荒れても、ここはどこまでも、どこまでも波静かな入り江で・・・。集落からは人の活動から生じる一定の栄養分やまた養殖による給餌のおこぼれなどから栄養分が自家汚染の無い程度に、入り江に入り、プランクトンの繁殖が活発で海の生産力が上がっており、魚介類特に貝類の生育に適したエサが豊富な海となっている。こんなイメージが里海でしょうか。

宇和海はこのイメージにぴったりと合うところなのだ。もちろん手つかずの大自然は素晴らしいが、人の生活の場と同居している、手がかけられた二次的な自然も素晴らしい。私はどちらかといえば後者の方が好きである。こんな景色に出会え、そして、沖磯に出なくても船溜まりの波止で釣果もそれなりにあるので通いたくなる。

釣果　マダイ、グレ

私の通う船溜まりの波止は右図にも示したが、三浦半島の先端にある蒋渕大島と由良半島中央の狭小部の船越の集落が中心である。いずれも非常に細い針金を無造作に曲げたような形の半島が海に長く突出している。宇和島の町からは車で30分～1時間程度。あたりはまさに里海が点在する。細い半島を車で走ると海は右窓に見えたかと思うと、次には左窓に、さらにもっとも狭い部分では両窓に見える。先端からは宇和海の広い水平線とそこに浮かぶ島々の姿が見えてくる。それは素晴らしい景色で見とれてしまう。

テレビの紀行番組や旅雑誌の紀行文、あるいは旅行社のパンフレットではよく絶景〇〇と書いたものを見かける。行ってみてがっかりすることも多々あり、そんな時は安易には使わないでよと言いたくなる。しかし、ここは使っても値打ちがあると確信する。それも、海に浮かんだ筏等を前景にその向こうに落ちる夕日は人の営みと自然とが融合したイメージで素晴らしく時には神々しいほどである。

三浦半島高崎鼻付近から望む

＜絶景をコーディネートする養殖筏＞

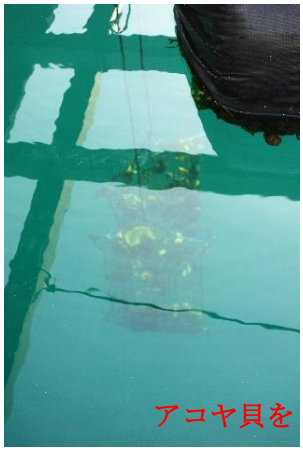
宇和海では実にたくさんの筏やブイを目にする。愛媛県は海面養殖業が盛んだと聞いていた。何を養殖しているのだろうと気になったので愛媛の水産業を調べた結果が右の表である。この表から解るように、海面養殖全体の生産額は日本二位。またマダイ、真珠、真珠母貝の生産量は日本一である。養殖タイの半分以上は愛媛産だったとは驚く。真珠もかなりのシェアである。魚の養殖は網で囲った仕切

愛媛の海面養殖業（平成26年度）

区分	愛媛県の全国シェア（%）	全国順位				
		1位	2位	3位	4位	5位
海面養殖業（生産額）	12.2	鹿児島	愛媛	北海道	長崎	大分
ブリ類（生産量）	13.5	鹿児島	大分	愛媛	宮崎	長崎
マダイ（生産量）	57.4	愛媛	熊本	高知	三重	長崎
真珠（生産量）	38.2	愛媛	長崎	三重	熊本	佐賀
真珠母貝（生産量）	79.7	愛媛	長崎	三重	－	－
ノリ類（生産量）	1.4	佐賀	兵庫	福岡	熊本	香川

りを筏に設けて海に浮かべて行っている。エサは配合餌料などを与えている。一方、貝は、海水中のプランクトンを食うのでエサは与えずともよい。適当な海域に漬けておくだけですむ。その漬け方だが、網かごに貝を多数入れて筏や多数のブイに張ったロープに吊るして適当な海域で養殖する。効率よく養殖するには海水中にぶら下げて海を立体的に利用するのがよいのである。これで筏･ブイが多いことをお分かりいただけると思う。

ところで、遠くからでも筏の形が分かれば海面下に何が養殖されているのか見当がつく。上下の写真にそれぞれの特徴が出たものをお示ししておこう。なお、ノリ筏は宇和海では水温が高いのでされていないのか見かけたことはない。これらは波の静かな内湾から少し沖の潮流のある場所まで、その対象物の好む環境に合わせて配置されている。養殖業は真珠産業の不振などで厳しい状況にあると聞いてはいるものの、今でも宇和海を利用した代表的な産業だ。そして、養殖筏等の並ぶ光景は既に美しい漁村風景の一部となり宇和海に馴染んでいる。



＜とっておきの景色＞

通う中で見つけた素晴らしい景色があるのでご紹介しよう（次ページの写真）。ここは三浦半島にある我々のマイポイント海賊島（勝手につけた名前。島ではないが海賊がこの地を治めたらしい）へ向かう途中にある。山が海に迫るリアス式海岸が続き、少ない平地を補うように、山の斜面にまで畑が広がり独特の風情を見せている。遊子水荷浦（ゆすみずがうら）の段々畑として地元では有名な場所だ。耕して天に至る。山の頂上まで石垣つくりの段畑が続くのである。「日本農村百景」に選ばれているだけでなく、平成 19 年には「国の重要文化的景観」に選ばれた。かつてはもっと広い面積で段畑栽培が行われていたそうだが、今でもジャガイモの栽培が行われている。段々畑を登ると、入り組んだ静かな湾の中に点在する養殖筏やブイがとても美しい光景を織りなしている。

水荷浦は 400 年前から徐々に、山の頂を目指して畑に変わっていったと伝えられている。水荷浦の地名の由来はこの地区から嫁に行った女性は、実家に帰るときには水を天秤棒につるして土産として持ち帰ったなど水が乏しいため水を荷って運んできた浦で、“水荷浦”となったとか・・・。

遊子･水荷浦の段々畑

＜宇和島の名物つまみ食い＞

宇和島は素晴らしい海だけでなくそこからの恵みにも魅力あるものがたくさんある。18 きっぷで旅した時に初めて食して驚いたものが鯛めしである。私は釣り好き、釣った魚を食うのも、料理するのも好きである。鯛めし料理にも自信がある。鯛めしと言えば土鍋にお米と鯛とだし汁を入れて炊くのが一般的だ。ところが宇和島の鯛めしは全く違って、熱いご飯の上に鯛の刺身と海藻等をのせて、その上から生卵で溶いただし汁をかけるものであった。これが非常にうまくて、今では私もまねて作っている。だし汁は市販の素麺や蕎麦用で十分である。

前住居のお隣さんはご夫妻とも宇和島地方の出身で、私たち家族が大変お世話になった方だが、奥様はお料理が上手でよくお裾分けをしていただいた。その中の一つにアジで作られた自家製のジャコ天があった。骨もすり潰してあるのかシャキシャキした歯ごたえがあり、非常においしくずっと覚えている。ジャコ天は愛媛県南予地方の海岸部で作られている。地魚などのすり身を、形を整え油で揚げた魚肉練り製品で揚げカマボコに分類される。宇和島の町を歩くと老舗らしき所からスーパーまで至る所でジャコ天が売られている。まさにソウルフードだ。釣行中は主にスーパーに売られている比較的リーズナブルなものを酒の肴に一杯やっている。藩史によれば、宇和島藩の初代藩主・伊達秀宗が故郷仙台（笹かまぼこ）を偲んで連れてきた職人に作らせたのが始まりとか・・・・。話しは少し逸れるが、ソバにも似たような話しを昨年訪ねた信濃上田で聞いた。上田は真田幸村の兄、信之が父の領地を継承したが幕命によって信濃松代藩へ移封され、代わって信濃小諸藩より仙石忠政が入った。その孫の仙石政明は 1706 年に但馬国出石藩へ移り、代わって出石藩主の松平忠周が信濃国上田藩に入ったようだ。出石のそばもジャコ天と同じように信州上田藩から伝わったものらしい。食もこのように伝搬すると思うとなかなか面白いものである。その他ふくめんや鯛そうめん、さつま、フカ湯引き、アコヤガイの貝柱、ヒオウギ貝など宇和島地方独特のおいしい料理がある。歴史のある町ならではの食文化だと思う。

＜宇和島藩のこと＞

海を目的に通っている。歴史には興味がなかった私を宇和島の町はいつの間にかそれに目を向けさせた。この町に入るといつでもお城が迎えてくれる。それに仙台にゆかりのある「伊達」という文字が目に止まることにも不思議であった。一夜漬けで調べた藩史を簡単にお伝えしてみよう。

現市街地の中心部に鎮座している宇和島城は豊臣時代の末期に藤堂高虎により築造され、江戸時代の 1615 年に伊達秀宗が入城。「宇和島藩・伊達十万石の城下町」として幕末まで栄えた。秀宗は戦国の世に「独眼龍」と称された仙台藩主（62 万石）伊達政宗の長男（側室を母とする）であり、幼少期に人質として豊臣秀吉のもとに差し出され、秀吉のもとで元服した。秀は秀吉の一字をもらったものである。政宗の世継ぎであったが、天下の覇権が豊臣家から徳川家に移り、また政宗と正室との間に忠宗が生まれたこともあって、秀宗は跡継ぎになりにくい立場になっていた。このため、政宗は徳川家に秀宗の身が成り立つように嘆願し、大坂冬の陣で政宗と秀宗がともに徳川方として従軍すると、幕府は政宗の戦功と秀宗の忠義に報いるとの理由で宇和島藩を与えた。宇和島藩伊達家は仙台藩の支藩ではなく新規に国主格大名として取り立てられ、秀忠より西国の伊達、東国の伊達と相並ぶように命じられた。

歴代の宇和島藩主の中に名君と言われた人物がいる。第 8 代藩主、伊達宗城である。彼は幕末の四賢侯大名の一人である。シーボルトの鳴滝塾頭を務めた当時最高峰の蘭学者である高野長英を藩へ招き、蘭学書の翻訳や砲台設計などを行わせた。また、長州藩の蘭医・村田蔵六を招き、専門書の翻訳ができることから「蒸気船建造」のための設計を命じ、蔵六はその期待に応えるべく長崎に学びそして城下の嘉蔵とともに蒸気船を完成させた。村田蔵六は後の大村益次郎であり、日本の近代的陸軍制の創始者となった。ちなみに司馬遼太郎の小説「花神」は蔵六を主人公としたものである。さらにシーボルトの直弟子の藩医二宮敬作を重用することで、西洋の知識を惜しみなく仕入れ、蝋の専売や石炭の採掘、蘭学の研究など、殖産興業や富国強兵に取組み宇和島の近代化に貢献した。

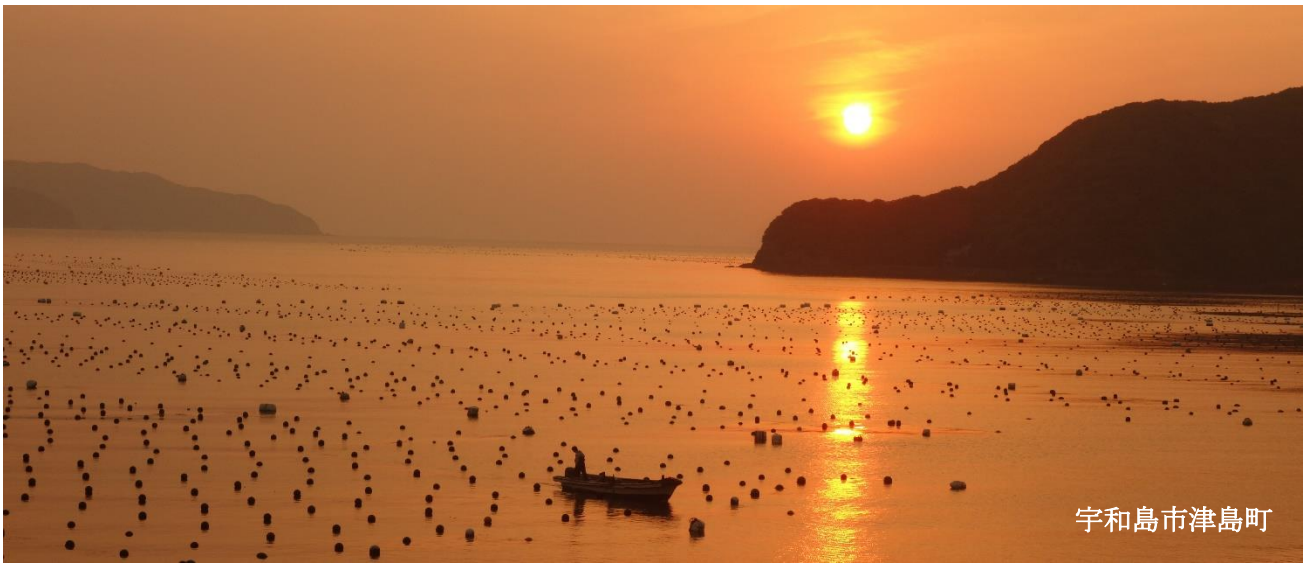
当時、近代化のために蘭学者すなわちオランダ語を通じて輸入された西洋の学問・文化を修め研究した人がいかに重宝されたかが伺える。江戸時代、鎖国令によって海外との交流は禁止され、西洋ではオランダ一国だけが長崎出島で貿易を許されていた。多くの志のあるものは長崎に遊学したという。蘭学者を育てた長崎の町とシーボルトが幕末の日本にいかに大きな影響を与えたかが伺える。なお、シーボルトと楠本タキとの間にできた娘、楠本イネ（後に産科医）はシーボルトが国外追放された後に二宮敬作に養育され、大村益次郎に蘭学を教えられた。イネは後年、大村が襲撃された後、彼を看護し最期を看取っている。司馬遼太郎は長崎と同様に宇和島をこよなく愛したらしいが、学生時代を長崎で過ごした私には、この二つの町の似通った地理的環境と上述の歴史からそれが何となくわかるような気になった。

＜アニメで見てみたいこの美しさ＞

絶景に出会うには実はちょっとしたタイミングがある。そのタイミングは釣りの好時間と合致している。釣りには地合いと言うものがある。釣れる絶好の時間帯のことで、朝まずめ、夕まずめがベストタイムである。それぞれ「辺りが明るくなり始める頃から日の出過ぎまで」と「日が沈む頃から真っ暗になるまで」の時間のことだが、その時間帯は思わず絶句するような幻想的な景色に巡り合うことがある。宇和島釣行はせっかくの遠方まで来ていることもあり、朝から晩まで終日竿を出して、その夜は車中泊であるからチャンスは多い。一般の観光旅行ではこの時間は食事かまだ寝ているだろうが・・・。釣り人だけが楽しんでよいのかと思ってしまうことも多い。しかし、このようなハードな釣りは年齢的に徐々にできなくなるのだが、有難いことに N 君という私より一回りほど若い仲間との釣行であり今も続けることができている。感謝する次第である。

超人気となったアニメ映画「君の名は」は山あいの美しい飛騨古川をモデルにしたと聞いているが、海辺の町に舞台をおく作品を制作するのであれば是非この宇和島の里海をモデルにしてほしいと思う。こんな美しい光景が愛媛の南の端っこに存在していることをどれほどの日本人が知っているのだろうか。是非、新開監督にお願いしたいものである。

西予市


宇和島市津島町

＜宇和島へのアクセス＞

・大阪から	飛行機	：関空→松山（55 分）
	車	：大阪（泉大津）→宇和島　415km（約 5 時間）
・松山から	JR 予讃線	：特急（約 1 時間 20 分）
	車	：松山自動車道 松山 IC～朝日町 IC（約 1 時間 30 分）